

## 音楽の魅力を感じ、主体的に取り組める鑑賞授業

—アウトリーチ活動による鑑賞体験を通して—

松岡 貴史\*

今井 妙\*\*, 河野 真紀\*\*, 西岡 茜\*\*

藤田 有紀\*\*, 松本 一菜\*\*, 水島 悠貴\*\*

山口 祥枝\*\*, 山下かおり\*\*, Liu Yu \*\*

(キーワード：音楽科教育、鑑賞、アウトリーチ、主体性、コミュニケーション)

### I はじめに

本稿は、平成26年度授業「教育実践フィールド研究(音楽科)」の研究報告である。平成26年度「教育実践フィールド研究(音楽科)」は、附属中学校からの研究希望テーマ「主体的に取り組める鑑賞授業」に沿い、「例年通り大学院生による生演奏(アウトリーチ活動)を全学年対象のLFの時間に」という要望のもと実施した。

### II 研究テーマの設定

本研究テーマ設定の背景には、平成20年改訂中学校学習指導要領音楽科学年目標がある<sup>1)</sup>。

第1学年 (3)多様な音楽のよさや美しさを味わい、幅広く主体的に鑑賞する能力を育てる。

第2学年及び3学年 (3)多様な音楽に対する理解を深め、幅広く主体的に鑑賞する能力を高める。

従前は「多様な音楽に興味・関心をもち」としていたが、今回の改訂で「多様な音楽のよさや美しさを味わう」とした。音楽のよさや美しさを味わうことは、その音楽の内容を価値あるものとして自らの感性によって確認する主体的な行為であり、音楽に対して自分なりの意味を見いだすことにつながっていくものである。

また、従前は「幅広く鑑賞する能力」としていたが、今回の改訂では「幅広く主体的に鑑賞する能力」となった。「幅広く」鑑賞するとは、多様な音楽を取り上げて、音楽を形づくっている要素や構造と曲想とのかかわりを感じ取り、音楽の特徴をその背景となる風土や文化・歴史と関連付けるなどして鑑賞することを意味している。さらに、「主体的に」を加え鑑賞した音楽について言葉で説明するなどの主体的・能動的な鑑賞活動を重視した。幅広く主体的に鑑賞する能力を育成することは、多様な

音楽の特徴をとらえて音楽文化に対する理解を深め、音楽を通して我が国や諸外国の文化を尊重する態度を育てることにつながっていくものである。

学校教育におけるアウトリーチは、元来、アメリカにおいて盛んに行われてきたものである。我が国においては、教科としての音楽科教育が存在し現在も実施されているが、既存の教育をより充実させるという方向性でアウトリーチが取り入れられてきた。これまでのアウトリーチの実践は、単に「アーティストを派遣する」という手法のみが先行した形式的なアウトリーチに留まっているケースも少なくない。これからは、人間形成という視点からアウトリーチをとらえ、音楽科教育におけるアウトリーチの可能性を原理的に考察し、その特性に基づいた授業を構想していく必要がある<sup>2)</sup>。

現役のNYフィルのティーチング・アーティストとして活躍しているデイヴィッド・ウォレスのいう“reaching out”の理念には、演奏家、聴衆相互のコミュニケーションが根底にあり、両者が対等の立場で音楽を共有しようとする意識がうかがうことができる<sup>3)</sup>。また、ウォレスの提唱するInteractive Performance(相互作用するパフォーマンス、以下、IP)は、聴衆が受動的に音楽を聴取するのではなく、音楽家との相互作用の中で音楽への関心や理解を高めることを目的としている。したがって、音楽科教育におけるアウトリーチの在り方や可能性を追究していく上で、IPの原理にみられる特性や意義からは、音楽の授業において、有効な示唆を得ることができる。

IPの6つの原理<sup>4)</sup>のなかで、最大の特徴は、聴衆へのEntry Point(音楽の探究を促す窓口、以下、EP)の提示である。これは、現行学習指導要領において新設された〔共通事項〕との関連があり、〔共通事項〕を活用した学習は、音楽の諸要素をEPを軸としてコンサートを展開するという発想に密接に関連している。

\*鳴門教育大学芸術・健康系教育部

\*\*鳴門教育大学大学院芸術系コース(音楽)

次に、聴衆の能力を引き出すということである。ウォレスは、活動を通して聴衆に刺激を与えるスキルのアイディアをリストとしてまとめている。このリストは、演奏家が、EPを窓口として音楽作品の経験的な理解を促す手段になる「聴衆ができること」を考案するための手がかりになる<sup>5)</sup>。

さらに、コンサートにおける省察活動の必然性である。一人一人の音楽の見方は、演奏家と聴衆の協同的な反応を省察することによって豊かになる。省察は、対話の他にも絵やポーズ、ジェスチャー、顔の表情等で表された音楽への反応を共有するという活動も考えられる<sup>6)</sup>。

このようなIPの手法から聴衆が音楽を理解するための適切な窓口となるEPを抽出し、そこから音楽的な理解を深めるために有益な経験となる活動を構想するプロセスを得ることができる。

### III 研究仮説

アウトリーチにおける「演奏家と聴衆相互のコミュニケーション」を意識した鑑賞学習を通して多様な音楽のよさや美しさを味わい、幅広く主体的に鑑賞する能力を高めることができる。

本仮説は、ウォレスの理念に基づき、演奏者と聴衆相互のコミュニケーションが根底にあり、両者が対等の立場で音楽を共有しようとする意識をはかるため、生徒が受動的に音楽を聴取するのではなく、彼らの思考力や想像力をうまく活用し、音楽への関心を喚起しようとするねらいによるものである。そして、先に述べたIPの原理に基づき、曲におけるEPの抽出と生徒ができることを考えた授業構想を練ることによって、生徒は、多様な音楽のよさや美しさを味わい幅広く主体的に鑑賞する能力を高めることができることを明らかにしていくものである。

具体的な方法及びそれによって期待できる効果を以下のように示す。

1. 歌唱、器楽、鑑賞、創作の4領域のバランスを考えて選曲することによって、生徒が多様な音楽に触れることができるようになる。
2. 教科書教材を違う編成で演奏することによって、生徒が、興味をもち、比較しながら聴くことができるようになる。
3. 演奏を聴くだけでなく、歌や手拍子などで共演する場を設定することによって、生徒が、楽しさや一体感を味わうことができるようになる。
4. 生徒の創作した曲を演奏して発表することによって、生徒が、親近感や満足感をもち創作への意欲を高めることができるようになる。

5. 共演や対話を取り入れることによって、生徒が、演奏者との双方向的な活動をすることができるようになる。

### IV 研究計画

以下の計画に沿って計画を進めた。

4～5月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本年度のテーマ、仮説を設定</li> <li>・受講生の専門分野を考慮し、楽曲選択の観点に沿ってプログラムを選曲</li> </ul>
6～7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・選曲したものを、演奏形態に応じて編曲及び作曲</li> <li>・合唱曲、リコーダー合奏曲の練習</li> <li>・附属中学校との打ち合わせ（研究テーマ及び選曲）</li> </ul>
8～9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・演奏する曲について、各グループで練習</li> <li>・解説方法やプログラムの流れや構成などの全体構成を検討</li> </ul>
10～11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各グループでの練習や合わせ、レッスン</li> <li>・演奏会で配布するプログラムを作成</li> <li>・当日のアナウンス原稿を作成</li> <li>・アンケートの項目を検討し、印刷</li> <li>・音楽コース内で試演会</li> <li>・附属中学校との打ち合わせ（下見）</li> </ul>
11月20日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・附属中学校での演奏会及びアンケートの実施</li> </ul>
12～2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケートの集計と集計結果の検討</li> <li>・研究紀要の作成</li> <li>・ポスター発表の準備</li> </ul>

### V 演奏会

#### 1. 楽曲選択の観点と演奏曲目

本研究メンバーである大学院生の専門分野や演奏可能な楽器等を最大限に生かすとともに、研究テーマや研究仮説を考慮し、次の観点を念頭においた選曲を行った。なお、演奏曲目1.は本研究メンバーである大学院生の作曲、演奏曲目5.は附属中学校生徒の作曲、演奏曲目7.8.は本研究メンバーである大学院生の編曲によるものである。また、このアウトリーチ活動が、Interactive Performanceとして生徒たちの主体的な鑑賞を促し、我々とも良きコミュニケーションが生まれるよう、演奏会の表題をfriendly concertとした。

＜楽曲選択の観点＞

- (i) 歌唱、器楽、鑑賞、創作の4領域のバランスを考慮することによって、生徒が多様な楽曲、楽器、文化に触れることができる。
- (ii) 教科書教材を原曲と異なる編成で演奏することによって、生徒が興味を持ち、比較しながら聴くことができる。
- (iii) 演奏を聴くだけでなく、声や手拍子で共演する場を設定することによって、生徒が主体的に音楽を楽しむことができる。
- (iv) 生徒が創作した曲を大学院生が演奏することによって、生徒が親近感や満足感を持ち、創作への興味や意欲を高めることができる。
- (v) 共演や振り付けなどの様々な演出、対話を取り入れることによって、生徒が演奏者や司会者との双方向的なコミュニケーションを持ち、一体感を感じることができる。

	演奏曲目	観点
1.	ファンファーレ「はじまりの予感」	i iv
2.	春（「和声と創意の試み」第1集「四季」）から第1楽章	i ii
3.	草原情歌・半月が昇るころ	i ii iii v
4.	交響詩「魔法使いの弟子」より	i ii
5.	リズム創作「秋の訪れ」	i iv v
6.	Ob-La-Di, Ob-La-Da	i v
7.	Let It Go ～ありのままで～	i iii v
8.	Hey Pachuco!	i iii v



春（「和声と創意の試み」第1集「四季」）から第1楽章



リズム創作「秋の訪れ」



Ob-La-Di, Ob-La-Da



Let It Go ～ありのままで～

## 2. プログラム

### **friendly concert**

鳴門教育大学大学院生によるミニコンサート

### ♪ プログラム ♪

#### 1 ファンファーレ「はじまりの予感」

水島悠貴, 山口祥枝 作曲

#### 2 春（「和声と創意の試み」第1集「四季」から）第1楽章 《リコーダーソロ：藤田有紀》

ヴィヴァルディ 作曲

夢笛 myu 編曲

#### 3 草原情歌・半月が昇るころ

《独唱：劉 宇》

王 洛賓 作曲

#### 4 交響詩「魔法使いの弟子」より

《ピアノ連弾：今井 妙, 水島悠貴》

デュカス 作曲

大宝 博 編曲

#### 5 リズム創作「秋の訪れ」

風にのったいちょう 福田 杏 作曲

くりひろい 八木萌香 作曲

秋の夜～耳をすませば～ 田村瑠実子 作曲

秋の夜 田中俊輔 作曲

十五夜の兎 國見幸伸 作曲

#### 6 Ob-La-Di, Ob-La-Da (オブ・ラ・ディ、オブ・ラ・ダ)

ジョン・レノン, ポール・マッカートニー 作詞・作曲

大田桜子 編曲

#### 7 Let It Go～ありのままで～

《ボーカル：山下かおり》

クリスティン・アンダーソン＝ロペス, ロバート・ロペス 作曲

河野真紀 編曲

#### 8 Hey Pachuco! (へイ、パチューコ！)

エドウィーン・ニコルズ, ジェームズ・アコール, デービッド・ドレーム 作曲

西岡 茜, 松本一菜 編曲



## ♪ 楽曲解説 ♪

### ファンファーレ「はじまりの予感」

#### 〈鍵盤ハーモニカ合奏〉

新しい何かが始まる時、例えば、中学校に入学したとき、新しく習い事やスポーツを始めるとき、初めての場所に行ったとき…みなさんはどのような気持ちになりますか？このファンファーレは、そんな新しい何かが始まる時の気持ちを鍵盤ハーモニカの明るく活発な音色で表現しました。

### 春（「和声と創意の試み」第1集「四季」から）第1楽章

#### 〈リコーダー合奏＋マリンバ〉

この曲はヴィヴァルディが作曲した組曲「四季」の中の「春」の第1楽章です。それぞれの曲には、ソネットという短い詩が付けられ、「春」では春がやってきた様子を表現しています。教科書でもおなじみの一曲ですが、今回は3つのリコーダー（ソプラノリコーダー、アルトリコーダー、テナーリコーダー）とマリンバによるちょっと変わった編成で演奏します。

### 草原情歌・半月が昇るころ

#### 〈独唱〉

雄大な自然の中、遊牧生活を送る青年が、遠い村に住む女性への恋心を歌い上げる…。

「草原情歌」は中国の作曲家である王洛賓（おう らくひん）によって作曲され、中国を代表する民謡として多くの人に知られています。

また、「半月が昇るころ」も王洛賓が作曲した民謡であり、半月が昇る美しい夜に青年が彼女の部屋の窓の下で情熱的に自分の気持ちを伝える姿が表現されています。

### 交響詩「魔法使いの弟子」より

#### 〈ピアノ連弾〉

魔法使いの弟子は、師匠の留守中水をくむ仕事が面倒になり、ほうきに魔法をかけて水をくませる。これで楽になったと思ったのもつかの間、ほうきはひたすら水をくみ続け床が水浸し。弟子はこれを止める魔法を知らずパニックに…。

交響詩「魔法使いの弟子」は、「魔王」の歌詞でもおなじみゲーテの詩に基づいて作曲されました。普段はオーケストラで演奏されますが、今回はピアノ連弾でアレンジされた曲を演奏します。物語を想像しながら聴いてみて下さい。

## リズム創作「秋の訪れ」 〈声によるアンサンブル〉

たった2つの言葉をいろんなリズムで表現することで、素敵な曲が生まれるリズム創作。今回は、附属中学校の皆さんが考えてくれた作品の中から5つの作品を取り上げ、私たちが考えたボディーパーカッションや身振りを加えながら演奏します。どんな秋の風景が登場するのでしょうか？2つの言葉のおもしろいかけ合いに注目して聴いてみて下さい。

## Ob-La-Di, Ob-La-Da (オブ・ラ・ディ、オブ・ラ・ダ) 〈三部合唱〉

ビートルズによる「オブ・ラ・ディ、オブ・ラ・ダ」は、明るいレゲエ風の曲調で日本でも大変人気のある曲です。市場に勤めるデズモンド・ジョーンズと、バンドで歌手をしているモリーが恋をして結婚する物語を歌ったもので、そんな2人の楽しげな姿を想像しながらお聴き下さい。

## Let It Go～ありのままで～ 〈ボーカル＋器楽合奏〉

今年、世界中で大ヒットした映画「アナと雪の女王」。ストーリーはもちろん、映画の中で用いられる素晴らしい音楽が注目されています。

その中でも代表的な「Let It Go～ありのままで～」を、今回の演奏会では、身近な楽器のためにアレンジして演奏します。どんな楽器が使われているか、どんな音色が聴こえてくるか注目しながら聴いてみて下さい。

## Hey Pachuco! (ヘイ、パチューコ！) 〈器楽合奏〉

1994年にアメリカ合衆国で公開されたコメディ映画『マスク』の中で歌われ、現在は吹奏楽やマーチングでよく演奏されています。とてもカッコいい曲で、今にも体が動き出しそうになるくらいノリのいい一曲です。今日は鍵盤ハーモニカとトランペット、チューバ、ドラムで演奏します。カッコいいトランペットの音色や、途中の大人っぽい雰囲気に注目してお聴き下さい。

♪演奏 鳴門教育大学大学院生

今井 妙	河野 真紀	西岡 茜	藤田 有紀	松本一菜
水島 悠貴	山口 祥枝	山下 かおり	Liu Yu	

## VI アンケート

演奏後、生徒全員に対し、以下のアンケートを行った。

### friendly concert

～鳴門教育大学大学院生によるミニコンサート～

附属中学校 L F タイム (2014.11.20)

\*アンケートに協力をお願いします。該当するものに、○をつけてください。

学年 : ( 1 ・ 2 ・ 3 年)

① プログラムの中で印象に残った楽曲は何ですか? (複数可)

- |                      |   |
|----------------------|---|
| 1. ファンファーレ「はじまりの予感」  | 2. 春(「和声と創意の試み」第1集「四季」から)第1楽章           |
| 3. 草原情歌・半月が昇るころ      | 4. 交響詩「魔法使いの弟子」より                       |
| 5. リズム創作「秋の訪れ」       | 6. Ob-La-Di, Ob-La-Da (オブ・ラ・ディ, オブ・ラ・ダ) |
| 7. Let It Go～ありのままで～ | 8. Hey Pachuco!                         |

② ①で選んだものの中から2曲選び、それぞれの曲が印象に残った理由を書いて下さい。

(プログラムの解説や裏面の言葉を参考にしてもかまいません。)

曲の番号 ( ) と ( )

印象に残った理由	

③ 今日の演奏会について、どのように思いましたか? 自分の思いにあてはまる数字に○をつけて下さい。

	そう 思う	少 し そう 思う	ど ち ら で も な い	あ ま り 思 わ な い	そ う 思 わ な い
1. 音楽には色々な楽しみ方(歌唱、器楽、創作、鑑賞)があることに興味をもつことができた。	5	4	3	2	1
2. 教科書にのっている曲が、楽器や形態をかえて演奏されることで、違った響きになることに興味をもつことができた。	5	4	3	2	1
3. 歌や手拍子で演奏に参加することで、演奏者と一体となって音楽を楽しむことができた。	5	4	3	2	1
4. リズム創作「秋の訪れ」では、友達や自分の作品の演奏を聴いて創作のおもしろさを感じることができた。	5	4	3	2	1
5. 演奏を聴くだけでなく、共演、対話をとおして演奏者との関わり合いを感じることができた。	5	4	3	2	1

④ 今日の friendly concert での感想を自由に書いてください。

.....

ご協力ありがとうございました。

## VII アンケートの結果と考察

以下にアンケートの集計結果（表，グラフ）を示す。  
また，アンケートの設問に従い，その結果から考察を行う。

### 質問① プログラムの中で印象に残った楽曲は何ですか？（複数可）

表1 印象に残った楽曲（複数回答） (人)

	1年生	2年生	3年生	全体
1. ファンファーレ「はじまりの予感」	34	35	20	89
2. 「春」第一楽章	48	43	33	124
3. 草原情歌・半月が昇るころ	25	40	31	91
4. 交響詩「魔法使いの弟子」より	30	32	27	89
5. リズム創作「秋の訪れ」	59	50	70	179
6. Ob-La-Di, Ob-La-Da	29	56	51	136
7. Let It Go～ありのままで～	75	71	76	222
8. Hey Pachucol	78	77	81	236

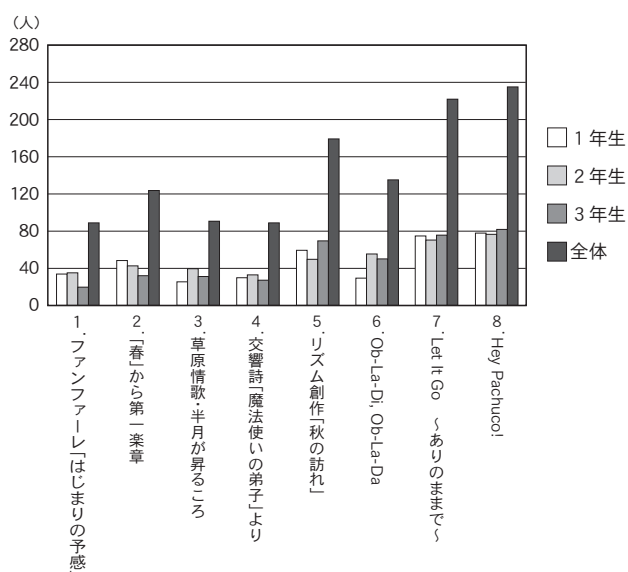


図1 ①プログラムの中で印象に残った楽曲は何ですか？（複数回答）

#### ○考察

- ・全体として，プログラムの後半に演奏した楽曲の方が印象に残っている。これは，演奏者も生徒もだんだんと緊張がほぐれ，体全体で楽しみ，盛り上がってきたためであると考えられる。
- ・最も印象に残った楽曲は，「Hey Pachucol」で，次に印象に残った楽曲は，「Let It Go～ありのままで～」であった。学年ごとで見ても同じ結果となっている。この結果から，聴くだけという一方向的な鑑賞学習ではなくて，一緒に歌ったり，手拍子やかけ声をしたりという参加型の鑑賞学習の方が，生徒の心により印象

に残るといえる。

- ・リズム創作は，何よりも附属中学校の1年生が創作した作品が演奏されたという事実にインパクトがあり，さらに私たちが動作などの工夫をして表現したことによって生徒たちの印象に残ったと考えられる。
- ・「春」は，音楽の授業で習った1年生の印象に残っており，「Ob-La-Di, Ob-La-Da」は，英語や音楽の授業で習った2, 3年生の印象に残っていることから，鑑賞には，それまでの経験が大きく関係していることがわかる。

### 質問② ①で選んだものの中から2曲選び，それぞれが印象に残った理由を書いてください。

表2 特に印象に残った2曲 (人)

	1年生	2年生	3年生	全体
1. ファンファーレ「はじまりの予感」	18	22	14	54
2. 「春」第一楽章	34	28	29	91
3. 草原情歌・半月が昇るころ	15	30	18	63
4. 交響詩「魔法使いの弟子」より	10	20	14	44
5. リズム創作「秋の訪れ」	35	33	57	125
6. Ob-La-Di, Ob-La-Da	15	29	35	79
7. Let It Go～ありのままで～	56	51	52	159
8. Hey Pachucol	70	71	68	209

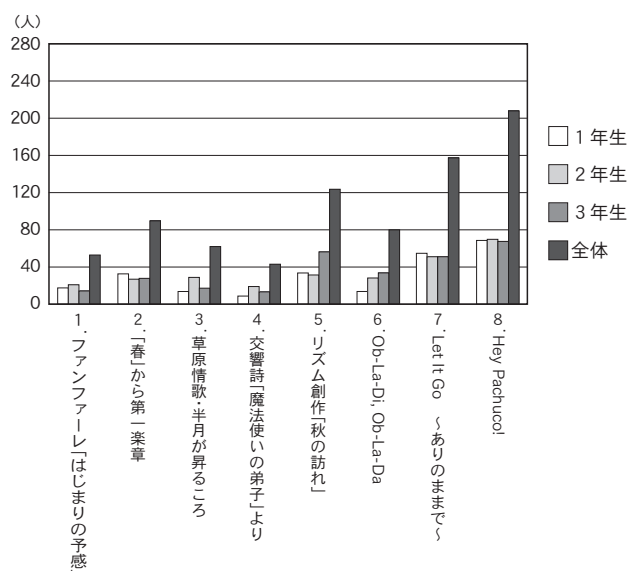


図2 ②①で選んだものの中から2曲選び，それぞれの曲が印象に残った理由を書いてください。

#### ○考察

- ・印象に残った楽曲を複数選んだ表1，図1と比べると，ほぼ同じ結果が得られた。
- ・リズム創作において，特に3年生の人数が多いことがわかる。これは，3年生だけが今までにリズムコンポジションを経験したことがないため，強く印象に残っ



たと考えられる。

### ◎印象に残った理由の回答と考察（各曲）

記述回答であるため、各曲の楽曲選択の観点に照らし合わせてまとめることで、考察を深めた。

#### 1. ファンファーレ「はじまりの予感」

（回答）

- ・小学校のときに使っていた鍵盤ハーモニカが、とてもオシャレに活かされており、楽器の新たな魅力を感じた。(i)
- ・鍵盤ハーモニカのソプラノからバスまでの幅広い豊かな音色の響きによる美しい演奏、また、音の重なりや強弱を付けた曲の演奏がすごかった。(i)
- ・大学院生の方々が作曲したことに驚いたし、メロディーに親しみがもて、にぎやかでリズムがよく、とてもわくわくした気分になった。(iv)

（考察）

まず、生徒は曲のメロディーに惹かれ、リズム、音の重なりや強弱を付けた演奏表現の特徴を感じている。生徒のために作曲したという思いも伝わり、創作への興味につながっていた。(iv)

また、鍵盤ハーモニカという楽器の新たな魅力を感じることができたようである。(i)

#### 2. 「春」から第一楽章

（回答）

- ・いつも吹いているリコーダーのきれいな響きに感動した。(i)
- ・ヴァイオリンの春しか聴いたことがなかったので、意外で楽しかった。(i)
- ・音楽の授業で習った曲が、形態を変えて演奏されることで、また違った音色が楽しめた。リコーダーとマリンバの柔らかく暖かい音で、違った印象の“春”が聴けた。(ii)

（考察）

生徒は、リコーダーとマリンバという異なった楽器編成による演奏によって曲の異なる印象を味わうことができていた。授業での学習が活かされ、比較しながら主体的に鑑賞することができたようである。(i, ii)

#### 3. 草原情歌・半月が昇るころ

（回答）

- ・中国の音楽には、あまりふれたことがなかったので興味がわき、自然と親しむことができた。(i)
- ・言葉はわからないけれど、大きさや気持ちが伝わってきた。(i)
- ・ある国の曲は、その国の言語の歌詞で聴くのがやはり

よいと思った。(ii)

- ・中国人の歌っているときの声がすごくよかったし、日本語と中国語では、曲の感じとリズムが少し違って、おもしろかった。(ii)

（考察）

生徒は、生の中国語の歌を聴くことによって、語感のもつよさを味わうと同時に、中国の情景を想像し、文化に興味をもつことができたようである。(i, ii)

草原情歌は教科書に載っている曲なので、一緒に歌うことにしていたが、知らない生徒もいたようで、共演の効果を十分得ることができなかった。(iii)

#### 4. 交響詩「魔法使いの弟子」より

（回答）

- ・ピアノの連弾をあまり見たことがなく、ピアノを習っているのでもう一度聞いてみたいと思った。(i)
- ・魔法使いの弟子は好きな曲で、ピアノで聴くと、とてもきれいな曲だと改めて思え、物語の場面が浮かんだ。(ii)
- ・ピアノの演奏で、これほど曲の雰囲気伝わってくるとは思わなかった。(ii)

（考察）

生徒は、ピアノの連弾に興味をもち、原曲とは違う魅力を感じることができたようである。物語を表現した曲だったので、魔法使いと弟子の様子を想像しながら、楽しい気分になって聴くことができたと考えられる。

(i, ii)

#### 5. リズム創作「秋の訪れ」

（回答）

- ・附中生が作曲したということで、新鮮さがあった。(i)
- ・友達が作った曲だったので、自分の参考になった。面白い表現もあったので、こんな作品を作ってみたい。(iv)
- ・言葉を二つ組み合わせているところ、リズム感や音の重なりがおもしろかった。(iv)
- ・表情豊かな声と振り付けがよかった。(v)
- ・私の作ったメロディーを演奏して頂いて嬉しかった。イメージにピッタリ！(v)

（考察）

まず、身近な友達が作った曲を演奏するという新鮮さが生徒を惹きつけた。(i)

また、創作のおもしろさ、つまり、リズムのくり返しや変化をつくり出すおもしろさを感じ取っていることがわかる。作品が選ばれた生徒も、満足感をもつことができたことがうかがえた。(iv)

私たちが、作品にこめられた思いを大切にイメージをふくらませ、一つ一つの言葉の発音に注意し、動作を加えて表現したことが伝わり、生徒たちの表情が和らぎ、

演奏者との距離が縮まったように感じられた。(v)

## 6. Ob-La-Di, Ob-La-Da

(回答)

- ・世界中で親しまれているので楽しめた。(i)
- ・知っている曲だったけれど、三部合唱にするととてもきれいな曲で楽しかった。軽やかなリズムが特徴で、聴いていてとてもさわやかな気分になった。(i)
- ・聴いたことが何回もある曲でとても耳に残った。歌えるようになりたいと思った。(i)
- ・歌や手拍子でみんなで楽しくできた。(v)

(考察)

この曲は、世界中で知られており、ビートルズファンや、英語の授業で歌ったことがある生徒も多かったことから、興味をもって聴くことができたようである。(i)

また、三部合唱という演奏の魅力と私たちがリズムにのって楽しく歌ったことで、自然に手拍子が始まり、演奏者と生徒が一体となることができたと考えられる。

(v)

## 7. Let It Go ～ありのままで～

(回答)

- ・まさに「今」の曲なので心に残った。(i)
- ・誰でも知っている曲なので親しみがあり、それをたくさん楽器で演奏することで、いつもとは違った Let It Go をきけたので新鮮だった。トランペットとハーモニカの組み合わせが意外で、いいハーモニーを生み出していた。(i)
- ・今年何度も耳にした曲ですが、実際に歌ってみるととても楽しかった。(iii)
- ・知っている曲で大学院の皆さんと一緒に歌うことができてよかった。Friendly になれたと思う。(v)

(考察)

今流行の曲であったことから関心が大きく、たくさんの楽器の生演奏であったことが中学生の実態に合い、興味をもって聴くことができたようである。(i)

それが、演奏に主体的に参加して歌う姿としてあらわれ (iii)、会場の一体感を感じることに繋がったと思われる。(v)

## 8. Hey Pachuco!

(回答)

- ・曲がかっこよかった。おどけた感じ。ジャズ風。(i)
- ・ドラムや金管楽器がかっこよく、同じ金管楽器を演奏する身として尊敬した。(i)
- ・はじめて聴いた曲だったけど、リズムにのって手拍子をするのがおもしろかった。一緒に音楽に入ることができた。(iii)

- ・音楽に一体感があって楽しかった。音量も大きく迫力があつたので、会場全体で盛り上がる事ができた。

(v)

- ・とても楽しそうに演奏していた。ノリがよくて、こっちも楽しくなってきた。(v)

(考察)

中学生に魅力のある曲であったこと、附属中学校に吹奏楽部もあることから、興味をもって聴くことができたようである。(i)

また、「Hey Pachuco!」とかけ声をかけ、手拍子をして一緒に演奏に参加することによって、音楽を楽しむことができたといえる。(iii)

最後の曲であったこともあり、会場全体が一つになり、盛り上がる事ができた充足感から、最も印象に残る曲となったと考えられる。(v)

## 質問③ 今日の演奏会について、どのように思いましたか？

○考察

- ・問1～5のすべての質問において「そう思う、少しそう思う」と回答した生徒が多かったということは、私たちのねらいがほぼ達成されていると解釈できる。しかし、「どちらでもない、あまり思わない、そう思わない」という生徒が、全体の10～20%いるという事実も受け入れ、その原因について考えてみることは重要である。
- ・問1, 2のような「興味をもつことができた」というレベルの質問では、「そう思う、少しそう思う」と回答した生徒が多かったが、問5の「演奏者との関わり合いを感じることができた」になると、「どちらでもない、あまり思わない、そう思わない」と回答した生徒が多くなったと考える。
- ・問3に「演奏者と一体となって」という言葉があるために、問5の内容と重なり、効果が分かりにくくなってしまった。「演奏者と一体となって」という言葉を問5に移動しておけば、問3では「聴くだけでなく参加することでより音楽を楽しむことができる。」という効果を、問5では「共演や対話を通して演奏者との距離を縮めることができる。」という効果を見ることができるようアンケートになったと思われる。アンケートの言葉の選び方の難しさを改めて感じた。

表3 演奏会の感想

(人)

	5 そう思う	4 少しそう思う	3 どちらでもない	2 あまり思わない	1 そう思わない
1. 音楽には色々な楽しみ方（歌唱、楽器、創作、鑑賞）があることに興味をもつことができた。	1年生 90	34	5	0	1
	2年生 82	49	17	1	2
	3年生 83	48	7	7	4
	全体 255	131	29	8	7
2. 教科書にのっている曲が、楽器や形態をかえて演奏されることで、違った響きになることに興味をもつことができた。	1年生 81	46	9	0	1
	2年生 74	51	42	5	1
	3年生 76	57	16	7	4
	全体 231	154	67	12	6
3. 歌や手拍子で演奏に参加することで、演奏者と一体になって音楽を楽しむことができた。	1年生 82	34	9	2	1
	2年生 69	50	23	2	2
	3年生 70	50	23	9	2
	全体 221	134	55	13	5
4. リズム創作「秋の訪れ」では、友達や自分の作品の演奏を聴いて創作のおもしろさを感じることができた。	1年生 76	44	9	1	0
	2年生 61	60	17	6	2
	3年生 74	47	10	11	7
	全体 211	151	36	18	9
5. 演奏を聴くだけでなく、共演、対話をとおして、演奏者との関わり合いを感じることができた。	1年生 68	48	9	4	1
	2年生 60	51	31	1	3
	3年生 59	48	24	13	4
	全体 187	147	64	18	8

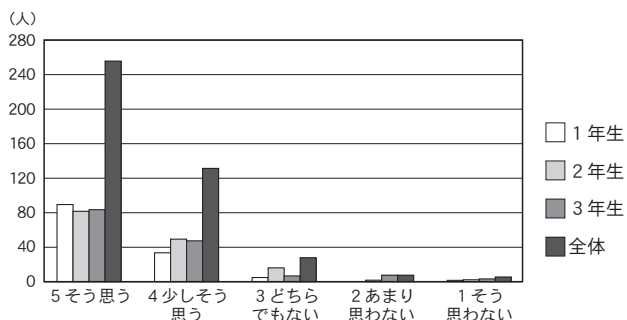


図3 1. 音楽には色々な楽しみ方（歌唱、楽器、創作、鑑賞）があることに興味をもつことができた。

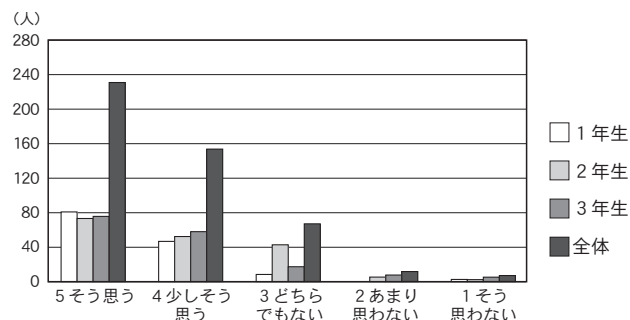


図4 2. 教科書にのっている曲が、楽器や形態をかえて演奏されることで、違った響きになることに興味をもつことができた。

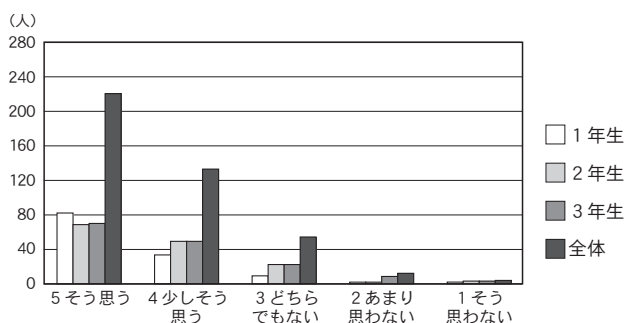


図5 3. 歌や手拍子で演奏に参加することで、演奏者と一体となって音楽を楽しむことができた。

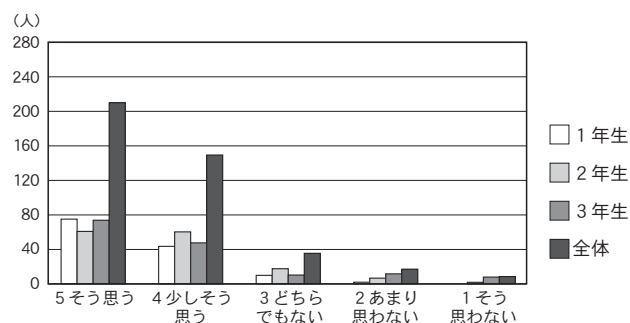


図6 4. リズム創作「秋の訪れ」では、友達や自分の作品の演奏を聴いて創作のおもしろさを感じることができた。

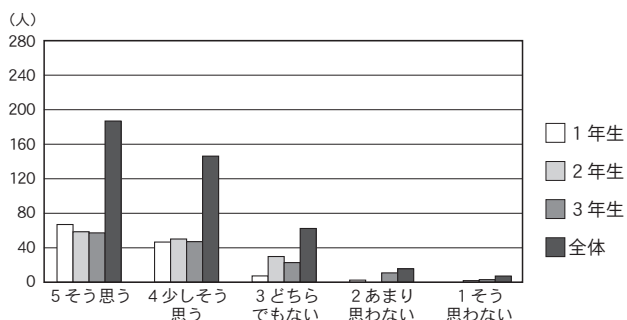


図7 5. 演奏を聴くだけでなく、共演、対話をとおして演奏者との関わり合いを感じることができた。

**質問④ 今日の friendly concert での感想を自由に書いてください。**

**○集計および考察**

記述回答であるため、質問②と同様に、各曲の楽曲選択の観点に照らし合わせてまとめることで、考察を深めた。

**(i) 歌唱、器楽、鑑賞、創作の4領域のバランスを考慮することによって、生徒が多様な楽曲、楽器、文化に触れることができる。**

(回答)

- ・自分の知っている曲がアレンジを加えて演奏されており、とても楽しかった。
- ・普段自分たちが使っているリコーダーや鍵盤ハーモニカでの演奏が多く、やり方を変えればこんなにもかっこよくなるんだと感心した。
- ・音楽には、ただ吹くだけでなく、手足も使ったり、いろいろな表現の仕方があっておもしろかった。
- ・国際色豊かで、有名な曲からこの日のために作曲された曲までいろいろな曲が聴けて感銘を受けた。

(考察)

これらの感想から、様々なジャンルや外国の曲を聴いたり、意外な楽器編成や表現方法を知ったりすることで、今まで以上に音楽に興味をもつことができた生徒が多かったといえる。

これは、音楽表現の多様さを知ってほしいという願いをもって選曲や編曲をしたことによるものと思われる、

(i) の内容がほぼ達成されたと考えられる。

**(ii) 教科書教材を原曲と異なる編成で演奏することによって、生徒が興味を持ち、比較しながら聴くことができる。**

(回答)

- ・中国語で歌う「草原情歌」が日本の音色と違い、日本と中国のよさが感じられた。
- ・音楽の授業で習った曲が、演奏する楽器によって全く違う感じになっておもしろかった。
- ・いろいろな曲を少人数で演奏していたのがすごかった。

(考察)

これらの感想から、生演奏による効果が強調されており、生の中国語の発音による曲を聴き、日本語による場合と比較することによって、その国の持つよさを感じ取ることができたことがわかる。

また、今まで聴いたことがある演奏とは異なる響きを味わいながら、楽しんで聴くことができたという意見が多いことから、(ii) の内容がほぼ達成されたと考えられる。

**(iii) 演奏を聴くだけでなく、声や手拍子で共演する場を設定することによって、生徒が主体的に音楽を楽しむことができる。**

(回答)

- ・知っている曲もあり、手拍子をしたり一緒に歌ったりすることで、とても楽しく聴くことができた。
- ・一緒に参加できてよかった。「パチューコ」の掛け声がすごく楽しかった。
- ・リズム創作や Let It Go や Hey Pachuco のときは、自分も参加している感じがした。
- ・これまでにない参加型だったので、びっくりしたけれど、逆におもしろかった。

(考察)

これらの感想から、ただ聴くだけでなく、一緒に歌を歌ったり、手拍子をしたり、掛け声をかけたりして演奏に参加するということが新鮮であったようで、より音楽を楽しむことができることを実感したことがわかる。これは、(iii) の内容がほぼ達成されたと考えられる。

**(iv) 生徒が創作した曲を大学院生が演奏することによって、生徒が親近感や満足感を持ち、創作への興味や意欲を高めることができる。**

(回答) \*演奏後のインタビューも含む。

- ・自分の作ったものより、リズムとテンポがよくて、すごかった。
- ・歌詞が1年生らしくてかわいかった。
- ・私の作った曲を様子を想像して動作で表現してくださり、イメージ通りだったのでうれしかった。
- ・私たちの作った曲が5人で並べると物語のようになっていた。

(考察)

これらの感想から、友達が作った曲のおもしろい表現に気づき、自分の参考にしようとする創作への意欲につながることができたようだ。また、作曲者も、自分の曲に演出が加えられ、発表されたことに満足しているようであり、(iv) の内容がほぼ達成されたと考えられる。

**(v) 共演や振り付けなどの様々な演出、対話を取り入れることによって、生徒が演奏者や司会者との双方向的なコミュニケーションを持ち、一体感を感じるができる。**

(回答)

- ・今日は、私たち生徒自身が音楽を楽しめる工夫があり、とても楽しかった。
- ・音楽は、演奏を見るだけでも新たな魅力に気づけたりとすごいのに、見ている側と一緒に手拍子などでも楽しめるのでパワーを感じた。
- ・演奏する側と聴く側が一体となって、いろんな音楽を



楽しめたのでよかった。

- ・「音楽はみんなが1つになれる」今日のコンサートでこのことを強く思った。
- ・今回のコンサートは、すごく音楽に惹かれた。コンサートが終わった時は、最初座っていたところから30cmも前にいた。

(考察)

これらの感想から、一緒に歌ったり、掛け声や手拍子をしたりして共演することによって、演奏者との関わり合いを感じ、距離を縮めることができたことがわかる。つまり、演奏者と聴く側の双方向的な音楽によるコミュニケーションができていたということである。

また、その他にも「仲間との絆が深まった」「クラスが一体となった」という感想が多く見られたことから、音楽のもつすばらしさを生徒自身が感じ取っていると受けとめることができる。これは、(v)の内容がほぼ達成されたと考えられる。

(その他の感想)

(回答)

**a. 生徒の好みや経験に関すること**

- ・知っている曲があったので、リズムにのりながら、より楽しんで聴くことができた。
- ・リコーダーや鍵盤ハーモニカなど、身近なものも使われていてよかった。

**b. 演奏者の技術に関すること**

- ・あんなにかっこいい鍵盤ハーモニカは初めて見た。
- ・マリンバを演奏されていた人が4本操っていてびっくりした。
- ・私もあんな風にリコーダーが吹けるようになりたい。
- ・合唱で歌うと、とても声がきれいに重なって気持ちがよかった。

**c. 演奏者の課題に関すること**

- ・もうちょっと吹奏楽にある楽器を使ってほしかった。
- ・立って一緒に歌うときは、後ろの方なので前が全く見えなかった。
- ・もう少し個々の楽器の音色を楽しみたかった。

**d. 生徒の気づき、発見に関すること**

- ・吹奏楽部に入っていて、体を動かして演奏することなどの大切さがわかった。
- ・とても明るく楽しくて、私も何か楽器をしてみようかなと思った。
- ・アンサンブルでは、息の合わせ方など参考になった。

**e. それ以外に関すること**

- ・楽しく元気になれた。
- ・聴きやすくて時間がたつのが早かった。
- ・演奏者の皆さんが、とても楽しそうに笑顔でやっていたのがすごく印象的だった。

(考察)

これらの感想から、生徒の知っている曲や演奏したことのある楽器を演奏することで、自分の経験をもとに主体的に鑑賞することができ、今後の演奏に活かそうとする意欲につながっていくことがわかった。また、少人数である上に、メンバーの演奏できる楽器が限られていたため、物足りなく感じる生徒もいたと思うが、その分メンバーで気持ちを合わせたり、笑顔で楽しく生徒と関わったりすることで、新たな音楽のよさを発見してくれたことはうれしく思う。これらは、私たちの研究の目的である、演奏する側での視点と聴く側での視点を同時に持ち、双方向的な相互作用の中で音楽への関心や理解を深めるという考えを共有することができたことをあらわしていると考えられる。

## VIII 成果と課題

### 1. 成果

本研究を通じて、以下のような5つの成果を得ることができた。

- ・歌唱、器楽、鑑賞、創作の4領域のバランスを考えて選曲し、生徒が興味をもつことができるような編成で演奏することによって、多様な音楽のよさや美しさを味わうことができた。
- ・プログラム2番において教科書教材を違う編成で演奏したり、プログラム3番において中国語による生演奏を味わったりすることによって、生徒が音楽に興味をもち、比較しながら聴くことができた。
- ・生徒が受動的に音楽を聴取するのではなく、一緒に歌ったり、手拍子やかけ声をしたりすることによって、体全体で主体的に音楽を楽しむことができた。
- ・生徒が創作した曲を大学院生が演奏し、発表することによって、各々の学年において、親近感や満足感をもち、創作への興味や意欲を高めることができた。
- ・生徒と大学院生が、一緒に歌ったり、手拍子やかけ声をしたりする共演や、生徒の創作作品の発表、感想を聞き合う対話を取り入れることによって、生徒と演奏者との双方向的なコミュニケーションができ、一体感を感じることもできた。

以上のことから、研究仮説である、アウトリーチにおける演奏家と聴衆相互の音楽によるコミュニケーションを意識した鑑賞学習を通して、多様な音楽のよさを味わい、幅広く主体的に鑑賞する能力を高めることができることが立証された。



## 2. 課題

今後の課題として、以下の3つがあげられる。

- ・音楽科教育において、人間形成に寄与するという目標を達成するために、アウトリーチをどのように位置づけ、活用していくかという点について、附属中学校の音楽教師と大学院生との共通理解を明確にしておく。
- ・アウトリーチを活用した授業が発展していくためには、教師が演奏家と協働して授業を創り上げていく能力、すなわち、コーディネートする力が必要になってくる。そのためには、附属中学校の音楽教師と具体的な授業構想を練る必要性があったのではないか。
- ・生徒からの意見に、演奏家が即興的に対応するというアウトリーチならではの相互交流のあり方も含め、授業を構築していく力が求められる。

以上のような課題について、引き続き研究を進めていきたい。

## 注

- 1) 文部科学省『中学校学習指導要領解説』第2章音楽科の目標及び内容 2008 p.10
- 2) 森田隆宏 平成25年度鳴門教育大学大学院学位論文『音楽科教育におけるアウトリーチの在り方と可能性に関する研究－D. ウォレスの示唆に基づいた音楽鑑賞指導の試み－』 pp.1－2
- 3) 同上書 p.27
- 4) 同上書 p.29
- 5) 同上書 pp.33－35
- 6) 同上書 p.31